

参考資料

参考資料1 令和4年度「附中×GIGA」の取組について(報告)

参考資料2 chromebook 使用の約束 (R4年度『附中×GIGA』サポーターズチーム作成)

令和4年度「附中×GIGA」の取組について(報告)

教務部
研究部
生徒指導部

I 学校 ICT 化の現在の状況

学校 ICT 化は、大容量通信網などのハード面が整備されトラブルが減り、端末の管理・対応の流れ(故障や破損への対応マニュアル化)が構築されるなど学校 ICT 化を進める環境は充実してきたと実感しています。

【附中×GIGA】

②の ICT 活用については、端末の授業活用が進んでいる。校内研修(年間3回)の中で多くの活用事例を交流しあうこともできました。②を積極的に取り組んできたことにより、ICT を用いることの可能性に気づくことができている。また、端末の目的に合わない使い方やネットトラブルといったなど解決すべき課題と出会うことにもなりました。発生した多くの問題は、未来につながる情報教育の重要性を意識させるには、十分なきっかけとなっています。

今年度の大きな成果は、「附中×GIGA supporters Team(通称 GIGA サポ)」を始動することができたことです。『共に』創る学校の一環として組織した『GIGA サポ』を①情報教育の中心に据えて「附中×GIGA」を生徒主体の取組にすることで、ICT 活用の風土づくりを進めています。

【校務活用】

行事の振り返りや各種調査(学校評価アンケート、取組の事前アンケート等)は Google form を用いることが定着した。これまで集計にかけた時間を大幅に短縮でき、即時性のある報告ができることが強みとなっています。また、全校朝会・学年集会、PTA 等でオンラインを活用することやクラウドを用いたファイル共有などが方法の選択肢のひとつとして定着しています。

一方 T-comp@ss(校務支援ソフト)を用いてデータを一括管理する運用の仕組みを構築し、共有することに課題が残ります。来年度は、MEXCBT が導入されることもあり、校務に ICT をどう取り入れるかの仕組みづくりと運用方法の共有が喫緊の課題ととらえています。業務の負担軽減や充実化につながる ICT 活用の在り方を模索する必要があります。

本校における学校 ICT 化の推進のポイント3+1



本校における学校 ICT 化の 2 つの柱



ICT 活用の有用性(抜粋)生徒アンケート 437 名回答

OICT を活用した授業は、学力向上につながるといいますか。

肯定的 96.1% (つながる 67.7% どちらかといえば 26.4%)

O有用感を感じる ICT を活用した学びの場面

A 写真や画像を見ながら学習する	96.1%
B 自分のレベルや目標に合わせてドリル学習をする	81.8%
C インターネットを用いて情報収集をする	95.9%
D 授業のあと学習内容をさらに詳しく調べる	85.1%
E 授業をふり返り、課題やレポートを作成する	86.3%
F 家庭で授業内容を復習したり、課題を仕上げるたりする	85.8%
G Jamboard やスライドで、クラスやグループに発表する	89.7%
H 他の生徒と意見を交換したり、まとめたりする	94.8%
I グループで役割を分担し、同時編集して作品を制作する	94.0%
J 学校と離れたところにいる人と交流する	81.7%

OICT をよりよく使いこなす人になりたいと考えている。

肯定的 93.6%

Ⅱ 『附中×GIGA』の取組について

【活動報告】 ※取組み事例紹介

	取組I 『GIGA サポ』の活動	取組II ICT活用の実践
4月	ICTサポーターズとして選出される ※1	「附中×GIGA」提案
5月	担当教員と活動の目的と内容を確認する 全校朝会ライブ配信の仕組みを提案・実践する	
6月	ICTサポーターズが特設授業を行う GIGAサポのメンバーを募集する ※3	第1回 ICT 実践交流会
7月	公開研特別企画で校長と対談する。 「GIGA サポ」発足・説明会を行なう ※2	公開研
8月	これまでの端末の使い方の振り返りを行なう。	
9月	端末の『生徒使用規定(仮)』の改訂作業にはいる ※4	
10月	校内研修に参加して、『端末使用の約束』を説明し意見をいただく。 ※4 『端末使用の約束』を仕上げ、発信準備を行なう。 情報モラル授業(学年別)の準備にはいる	第2回 ICT 実践交流会 『GIGA サポ』と附中の ICT 活用について語る会 ※4
11月	全校朝会で『端末使用の約束』を全校生徒に提案する ※4	
12月	学年集会で情報モラルの授業を行う ※3	
1月		
2月	アンケートをとり、『端末使用の約束』を見直す	第3回 ICT 実践交流会 ※5
3月	R5年度活動計画をたてる	

【取組内容説明】

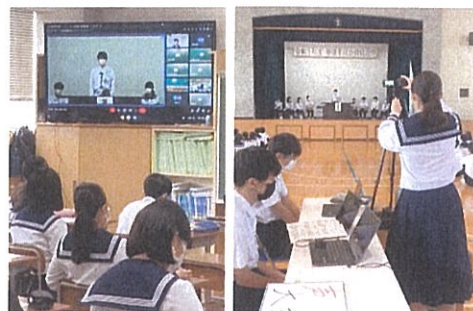
取組 I 『GIGA サポ』の活動

※1 GIGA サポ設立に取り組んだ ICT サポーターズ

生徒主体の組織『GIGA サポ』を企画するために3年生より3人を選出しました。「どのような組織にするか」「どんな活動をするか」など、企画をすることで高い意識が芽生え『GIGA サポ』のリーダーとして活躍してくれました。また、感染症対策でオンライン開催となった全校朝会の臨場感を伝えるべくライブ中継をするなど、「日々の生活の中にICTを取り入れてみる」といったアイデアを実践しました。この実践は、『GIGA サポ』に引き継がれ、実施方法の選択肢のひとつとして定着しています。

※2 公開研特別企画で実現した校長との対談

『GIGA サポ』としてこれから附中生がめざす姿について校長先生と対談しました。これまで遊びの道具だった ICT 端末を学習道具とするのに戸惑ったエピソードなど踏まえてこの活動に対する意気込みを語ってくれました。



※3 生徒が生徒のために企画した特設授業

① 1回目の授業(6/22)

まず『附中×GIGA』を生徒自身で推進し、情報活用能力を高めあう集団に成長してほしいという教師の願いを全校生徒に伝えました。

授業内容は、「情報の信頼性・情報の選択について」です。

「附中生は、ネットモラルの意識が低い」「ネットの常識が身につけていない」と感じたことを受け、インターネットから得る情報に左右されてしまう危険性を学習しようというのが内容を決めた理由です。

また、「chromebook の使い方についてお悩みを解決」も企画しました。これまで使ってきて困りに思う経験をもとに使用者である生徒たちが解決しあう風土づくりのきっかけになればと考えたのが理由です。

授業の感想

僕はいつも調べて一番上に出てきたものを見ているけど、これからは他のものも見ようします。ICTの活動は少し面白そうだった。」

学校生活に導入された端末によって起こった問題が多く、使わせないほうが良いのではないのかという意見を聞きました。ですが、私はchromebook をきっかけに ICT 関係の様々なことに対して興味を持てるようになりました。その分情報モラルを守って行動することが増え、自分にとって新しい世界がひらけました少し 成長できたように感じています。授業ありがとうございました。

今まで、スライドなどのパソコン作業は班員のできる人に任せるところがあった。今回の提案授業でその操作方法がわかったので、自分からできるようにしたいです。

クロームブックは学習のために使用するものなので、遊ぶときは家の端末でするなど、しっかり区別をしなければならぬと思いました。とくにインターネットの使用方法では、「遊ぶときは遊ぶ。勉強するときは勉強する。」とけじめある習慣をつけられるように細かいところまで気をつけていきたいです。

② 2回目の授業(12/20)

各学年のモラルの実態に合わせて、授業を企画しました。

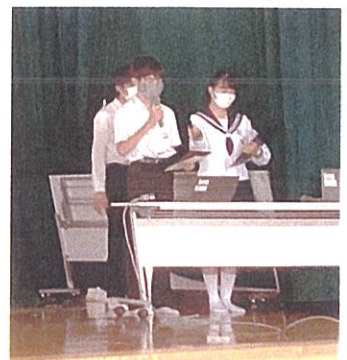
学習内容

3年：受験期に上手にスマホと付き合う～SNSの危険等～
2年：冬休み前の心構えをつくろう～ネットモラル、肖像権、法律～
1年：自分の身を守る～健康とSNSトラブル～

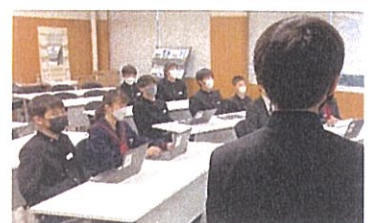
実施時間

朝の学年集会(20分)

学年のICT担当とGIGAサポが相談しながら授業を企画しました。授業内容については、KCS大分情報専門学校より先生をお招きし、ご指導・ご鞭撻をいただき改善を図りました。生徒にとってプロの目から監修を受けることは貴重な体験であり、自分が「附中のICT推進をけん引するんだ」という気持ちにさせたと思います。また、生徒が自分たちの学年について考え、ニーズに合わせて発信できたことも成果と感じます。



授業を通して、多くの生徒が『GIGA サポ』の活動に興味をもつことができ、ICTの活用を教師主導から生徒主体に移行させる第一歩の取組となりました。



※4 端末の『生徒使用規定(仮)』の改訂作業

昨年4月GIGAスクール構想によるICT端末を導入する際に、指導のためにつくった『生徒使用規定』のうちICT端末の活用に関する部分を学習者(生徒)の手で改訂しようという活動で、今年度『GIGA サポ』が力を入れた取組です。長い改訂作業を経て、『chromebook 使用の約束(生徒用資料)』となりました。「この約束を指標として考動できる附中生になる」という『GIGA サポ』の強い思いが込められています。遊びに使うことが多かったICT端末を学習道具として選択肢のひとつにするという主体的に関わる第一歩になったと思います。

①企画会議

まず、ICTサポーターとICT推進担当で組織をつくりと改訂のスケジュールを確認しました。

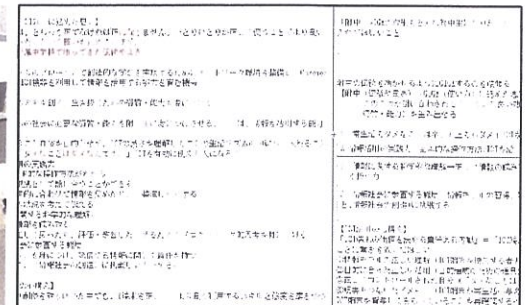
組織		
3年 Team(2名)	+	サポート + 3年部 ICT 担当教員
2年 Team(6名)	+	サポート + 2年部 ICT 担当教員
1年 Team(5名)	+	サポート + 1年部 ICT 担当教員
監修 ICT 推進担当(研究主任、生徒指導主事)		



この改訂でこだわったのは「生徒のことばにかえる=自分たちの約束にする」です。担当教師は、できる限り「how-toの支援と見守り」をしようと心がけました。

②改訂作業

次に今の生徒使用規定を読み込みました。そして新旧対応の表を作成し、改訂すべき場所を考え、項を組み替えました。ひとつひとつの文章とその意味を考える作業は多くの時間をかけることになりましたが、活動を重ねるたびに『GIGA サポ』の意識が高まるのを感じました。



③ブラッシュアップのための意見収集

校内研に生徒が参加し、附中のICT活用について話し合いました。新鮮な取組で教師にとってもICT活用における指導(支援)について考えさせられる良い機会となりました。「使用の約束」自分たちのことばで説明しようと精一杯の姿を見て、「附中×GIGA」の主体が生徒に移行でき始めた実感しました。このあと教師の意見を参考にブラッシュアップに取り組みました。



④全校生徒への発表

全校朝会で『附中×GIGA』の主体が生徒にあり、『4つの心構え』を意識して考動しようと発信しました。『GIGA サポ』の活動のたすきは、2年生に引き継がれ今後も見直しを行う予定です。



⑤ 生徒の考える『chromebook 使用の約束』の意味

自分の将来を見据えて ICT との付き合い方を考える「心構え」を指標として活用する附中生の考動を促すものにしていきます。管理に関する規定や GIGA スクール構想の説明などは、資料としました。このような約束をつくっても、ICT 端末を使う以上トラブルやアクシデントそして不適切な使い方をする生徒は、必ずあります。そのようなときに生徒自身がよりよい環境にしていこうと前向きに取り組んでいる「学び続ける集団」であれば経験のひとつとして糧にすることができるはずで。このような思いで「生徒と共に創る」にこだわった取組になったと思います。

ICT 活用の心構え ⇒ 「日常生活でダメなことはネット上でもダメ」ICT を有効に使える人になろう

「ICT 端末の価値を決める責任ある考動」=「ICT 端末を積極的に扱うことへの責任を自覚すること

- ①情報モラルの正しい理解 (ICT 端末を使用する者として自己責任を自覚する)
 - ②目的に合った正しい活用 (目的達成のための道具だと意識する)
 - ③正しくコントロールされた自分 (「ダメなことはダメ」と判断する)
 - ④現実とつないだイメージ (ICT 端末が実生活へ与える影響を考える)
- +ICT 端末を貸与してもらっていることを自覚する

取組II ICT 活用の実践

昨年と同様に年間 3 回交流会を実施しました。(6 月、10 月、2 月) ICT 端末の活用事例をレポートにまとめグループで協議しあうものです。授業での事例には、これまでの道具と置き換えた事例や同時編集などの作業や意見の共有といった新しい学び方が報告されていました。授業以外にも制服検討委員会の取組や生徒の健康に係る調査、他校との交流会など多岐にわたる取組の交流になりました。ICT 端末は普段から使う学習道具として定着してきたと実感しています。



Ⅲ R4 年度 『附中×GIGA』推進のための組織・業務分担について

分掌	業務	企画	実務
端末管理 (ICT端末)	【端末の管理】 アカウント登録名簿作成 アカウントの登録・管理 一台端末の保守・管理	教務主任	教務部【学年主任】 各学年 ICT 担当 情報支援(工藤)
端末管理 (企画会議)	【規定の管理】 運用規定・使用規定等 【ソフトウェアの管理】 Classroom の管理 ブラウザアプリ・ソフト管理	教務主任 研究主任 生徒指導主事 (事務室)	必要に応じて 学年主任・ 各学年 ICT担当 教科主任
ICT 活用推進 (学習全般)	【ICT 活用…端末の活用】 授業活用推進と効果検証 実践の発信 【各種機材の管理】	研究主任	研究部 各学年 ICT 担当 教科主任
ICT 活用推進 (生徒会等) 生徒活動の支援	【ICT サポートーズチーム】 運営 活動支援 操作方法の教え合いの環境づくり 生徒使用規定など 学校内活用支援	生徒指導主事 研究主任	生徒会担当 研究部 生徒指導部 各学年 ICT 担当
ICT 活用推進 (情報教育)	【情報教育:モラルとマナー】 情報教育を技術科と連携する 【ICT 活用…生徒会】	生徒指導主事	生徒指導部 各学年 ICT 担当
その他	大容量通信網等の学校設備 PTA との連絡調整 端末修理に係る調整(事務室)	教頭	各学年 ICT 担当

Ⅳ 『附中×GIGA』の令和 5 年度に向けた課題について

3 年計画『附中×GIGA』は、計画より進んでいます。

- ✓ 1年目 「まず使う/未来への投資」…課題の洗い出し、可能性の発見、分掌・業務分担の制度構築
- ✓ 2年目 「効果を考える/ひとつの選択肢として」…「デジタルかアナログか」ではなく「デジタルもアナログも」
- 3年目 「あたりまえのレベルを上げる」…自主・自律に支えられたサポート体制や使用環境の確立

しかし、学校ICT化の展開は、予想を上回る展開で新しい課題に直面しています。喫緊の重点課題として以下のようなことが考えられます。

1、ICT 端末活用を持続するための運用システムの構築	⇒教職員個人のスキルに頼らない組織づくり ⇒業務の洗い出しと分担の調整と見直し
2、生徒が主体となって活用できるための支援	⇒端末の保守管理の仕組みの定着 ⇒ GIGA サポートーズチームへの支援 ⇒生徒と教師の情報モラルのアップデート ⇒ ICT 活用実践への支援

これらの課題を教師と生徒が「共に」解決していく取組に 3 年目の『附中×GIGA』をしたいと考えています。

chromebook 使用の約束 (生徒用資料)

1 『附中×GIGA』でめざすところ

ICT は私たちの生活の中で欠かせない道具になりつつあります。その中で大事なことは、ICT 機器を使うのが目的 達成の手段の一つであることを理解し、正しく利用できることです。GIGA スクール構想では自分の将来を見据えて ICT との付き合い方を私たちが考えていきましょう。

【附中(伝統や良さ)×GIGA(使う私たち)】… 附中の伝統を活かせるように GIGA を用いて頑張る
この2つを掛け合わせることでより良い効果(これからの未来を作り、生き抜くための資質・能力)を生み出す附中の学びをつくろう。

【できるようになりたいこと】

A 情報活用を実践すること

⇒基本的な操作方法,ICT を活用した話し合い,情報収集力,情報の整理

B 情報を科学的に理解すること

⇒正しい情報の読み取り,プログラミング的思考の習得,情報を正しく扱う

C 情報社会に参画すること

⇒情報モラルの習得、発信する情報に関して責任を持ち、新しいこと(情報社会の創造)に挑戦する

2 ICT 活用の心構え ⇒ 「日常生活でダメなことはネット上でもダメ」ICT を有効に使える人になろう

「ICT 端末の価値を決める責任ある考動」=「ICT 端末を積極的に扱うことへの責任を自覚すること

①情報モラルの正しい理解 (ICT 端末を使用する者として自己責任を自覚する)

②目的に合った正しい活用 (目的達成のための道具だと意識する)

③正しくコントロールされた自分 (「ダメなことはダメ」と判断する)

④現実とつないだイメージ (ICT 端末が実生活へ与える影響を考える)

+ICT 端末を貸与してもらっていることを自覚する

3 自らの健康を守る

【全般】

- ・良い姿勢を保ち、目と端末の画面との距離を 30cm 以上離す(長ければ長い方が良い)
- ・30 分に 1 回は、20 秒以上、画面から目を離して遠くを見て目を休める
- ・画面の反射や画面への映り込みを防止するため画面の角度等を調整する
- ・部屋の明るさに合わせて端末の画面の明るさを調整する

【家庭】

- ・就寝 1 時間前からは ICT 機器の利用を控える
- ・家庭において、利用時間などのルールを定める
- ・利用した時間を定期的に確認して、使い過ぎを防ぐ工夫をする

4 約束

①「心構え」を理解し、責任ある考動をしましょう。

※エチケットとマナーを意識し、目的に合った正しい使い方の習得をめざしましょう。

※ルールの抜け道をねらった使い方をしたり、知識を悪用したりするのはやめてください。

②生活でのルールは次の通りです。

朝登校時	chromebook をキャビネットから取り出し、ログインしておく
授業中	先生の指示に従う
昼休み	使用する場合は、担任に目的を伝え、許可を得る
帰りの会 放課後	キャビネットに CB を返却し、充電をする。(左側のコードを使用する) 電源を切る(ログアウトをする) ※専門委員会や部活動で使用する場合は、担任に許可を得る。 ※自宅に持ち帰る場合も担任に許可を得る。

③フリーWi-Fi は、接続禁止です(情報が抜かれる可能性があるため)

④学習のために使用しましょう。※不適切なサイトにアクセスしないようにしましょう。

⑤chromebook を便利に使うために、次の持ち込みが許可されています。自己管理をしましょう。

○マウス (Bluetooth または USB 接続のもの)

○タッチペン(使用できないものもある。例:Apple Pencil、3DS 用、ペン先がプラスチック製のもの)

○ヘッドセット(Bluetooth または USB 接続のもの)、イヤフォン(ジャック接続)

⑥chromebook は、デフォルトの状態で使用しましょう。

⑦ブラウザ画面上に多くのタブを開いたままにしないようにしましょう。

5 オンラインになったとき

○学校から指定された時間に指定された方法でアクセスをします。(各 classroom>Meet)

○制服を着用します。(身だしなみは学校と同じルールで)

○授業中に接続しない携帯電話・スマホ・タブレット等の不要物を扱いません。

※手元に置かないようにする。

○授業に必要なのない勝手な発言をしません。

※基本的にはミュートにする。発言をする場合のみミュートを解除する。

※同様に理由があるとき意外は勝手にチャットを使わない。

○なにか不具合があった場合にはホスト(先生)へチャットで知らせます。

○通信障害でミーティングから退出してしまった場合は、接続をし直します。

○背景に注意します。

※映り込みに注意する。また必要に応じてヘッドセットを使用する。

○授業に集中して取り組めるように環境を整えます。

※トラブルや不具合等に関する連絡先については、その都度ご連絡します。(さくらメール等を利用)

※家庭の端末でオンライン授業に参加することも可能です。

6 Q&A (困りを解決するために)

Q1、家で充電するにはどうすればよいですか。

充電するには、USB Power Delivery 対応 AC 充電器が推奨されます。

携帯電話の充電器 (typeC の USB ケーブル) には、充電できるものとできないものがあります。

Q2、ブラウザー画面にタブを出したままにしてはいけないのは、なぜですか。

タブ等を開き続けることは、デスク上が散らかっているのと同じです。授業に集中するためです。

タブが並んでいるのはアクセスしている状態と同じです。ネットワークに負荷をかけないためです。

Q3、Wi-Fi の通信速度が悪いときどうすればよいですか。

授業を受ける教室で再起動 (電源を切る) をしましょう。(ログアウトでは効果がありません。)

Q4、電源ランプはついていのに、画面が暗くて動きません。

放電モードになっている可能性があります。

解除の方法…【更新ボタン】を押したまま【電源ボタン】を短く押す。しばらく待つと再起動します。

※再起動しないときは、故障の可能性があるので先生に報告してください。

Q5、今後 chromebook の使用する場面が増えることはありますか。

朝の会で、本日の日程や連絡事項、生徒会の連絡などを先生の指示に従って classroom で確認できるようにするなど活用の可能性はたくさんあると思います。

≪ 資料I 本校の ICT 端末の仕様および GIGA スクール構想の目指すところ ≫

【ICT 端末について】

本校の ICT 端末は chromebook (Chrome OS を搭載したコンピュータ) を採用しています。一番の特徴は、データをすべて cloud (クラウド=Google ドライブ) に保存することで、どの端末でもアクセスできる点にあります。データを内蔵されたストレージに保存する Windows PC や iPad と大きく異なります。

chromebook では、プロセスがサンドボックス内で行われるためウイルス対策は基本的に不要でありセキュリティは強固だと言われています。したがってウイルス等の障害がみられるのは、閲覧したページの影響などで主に使用者の使い方によるものが原因であると言われています。

オフィス系アプリは、Google Workspace (G suite for Education) を使用します。また授業においてブラウザーアプリを使用することもあります。

【GIGAスクール構想を推進する基本的な考え方】

特定のアプリに偏った運用にならないようにする。(基礎的・汎用的な情報活用能力の育成を目指す)

GIGAサポ(『附中×GIGA』Supporters Team)を組織して、生徒がICT活用について考え、困りを自ら解決し、『附中×GIGA』を生徒が主体となって推進するように支援する。

端末を使用するマナーやエチケットについては、「責任ある考動」もとに使用者(生徒)に考えさせる。

ただし、管理に係る規定は学校が大学と協議して定める。

≪ 資料2 生徒使用規定【大学と学校が示す ICT 端末使用のきまり】 ≫

何かあったら、学校(大人)に相談や報告をすること

1、端末の管理・使用について

- 大分大学から個人に貸与された学習用具である。使用時はもちろん、持ち運びや保管のときも丁寧・適切に取り扱うこと。
- 保存は、各自のアカウントにある Google ドライブにすること
- 許可されたクラウドサービスおよびアプリケーションを使い、教育活動に係る学習目的のために使用すること。
- 公序良俗に反すること、貸出・転売等の違法行為はもとより、生活のリズムを崩すような使用はしないこと。
- 故障・破損・紛失・盗難等の事由が生じた場合には、速やかに学校に届け出を行い、学校の指示に従うこと。
 - ※故障の疑いを感じたら、早めに学年ICT推進担当に申し出る
 - ※破損の場合、保険の適用を受けるために、状況を詳細に報告する
 - ※紛失・盗難の場合、警察にも届け出をし、その証明を受ける
 - ※使用者に重大な過失があった場合、弁償及び修理費の負担をしていただく場合がある。
- 学校では、原則教員の管理下で使用すること。
 - ※端末の管理は、教員(担任)が行う。…帰りの会で学習委員が端末のチェックをする
 - ※持ち帰りは、教員(担任)の許可を得る。

2、アカウントの扱いについて

- 入学時、大学より発行されたアカウントを使用すること。
 - ※与えられたパスワードは、変更しないこと
- ID およびパスワードは、適切に管理をすること。
 - ※第三者に見せない。

不正アクセス禁止法(罰則)

第十一条 規定に違反した者は、三年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

- 不正アクセス(他者のアカウントにログインすること)の疑いがあれば、すぐに報告すること
 - ※管理権限者は、保守点検・動作確認のために生徒アカウントにログインし、操作を行う。

3、端末・インターネットの特性と個人情報の扱い方について

- 端末やインターネットの特性と個人情報の扱い方を正しく理解しながら使用すること
 - ※自分にとって危険な行動や他人に迷惑をかける行動になっていないかを考える習慣を身につける。
 - ※ネットトラブルを起こさないような細心の注意をはらう。
 - ※日常生活ではしてはならないことは、インターネット上でも同様だと意識する。
 - 例えば…本人の許可を得ることなく写真を撮ったり、録音・録画したりしない。
 - 他人を傷つけたり、嫌な思いをさせたりすることを、書き込まない。
 - 情報を安易に信じ、あたかも真実であるかのように拡散するような行為をしない。 等

4、持ち帰りについて

- 家庭に持ち帰り、端末を利用する場合は保護者の責任の下で使用すること。
- インターネットには、自宅で契約している Wi-Fi に接続すること
 - ※コンビニ等のフリーWi-Fi への接続はしない。(クラウドの安全保持のため)
- 充電については各家庭で行うこと
 - ※充電に必要な機器は、各家庭で準備をする
- 家庭にある端末でアクセスできる Google の特徴を理解し、端末の持ち帰りを判断すること

研 究 同 人

御手洗 宏昭	矢野 雄大
本田 英樹	永富 健太郎
齋藤 秀幸	高橋 舞
三村 洋平	白根 和延
井田 由紀	石村 成葉
田村 有実子	下田 妃華
草場 博文	板井 涉
小野 智博	白石 遼太郎
木梨 祐司	加地 伸二
矢治 朋恵	高橋 雅子
中村 希美	Garillon Mathieu
羽田野 直樹	工藤 雅康
阿南 幸一	白井 圭介
釘宮 里枝	佐土原 優
添島 秀紀	高島 妙子
高木 博也	

令和5年3月 発行

発行者 大分大学教育学部附属中学校

代表 御手洗 宏昭

住 所 大分市王子新町1番1号
